

第5回松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピックやきシティ
おもてなシティ推進会議 議事録

1. 日 時 平成28年11月28日(月) 9時～
2. 場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン
3. 出席者 別紙のとおり(委員11名のうち8名出席)
4. 傍聴者 なし(傍聴希望者なし)
5. 会議経過 (1)開会 9時
(2)長江会長挨拶
(3)報告1 2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた
取組み、及び部会の設置について
(4)報告2 2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリン
ピックパラリンピックについて
橋口委員、太下委員
(5)議題1 2020年 東京オリンピック・パラリンピックに向
けた取組みに関連する検討課題、及び部会の設置
について
(6)閉会 11時

6. 議事概要

○長江会長

議題1の2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組みに関
連する検討課題及び部会の設置につきまして、事務局から報告がありました
が、その他、成熟した都市の二度目のオリンピックという切り口で、松戸
市として検討したい課題等、まずお伺いして、この4つの部会で良いか
どうか、それから、委員の方々が部会に手を挙げていただいて加わって
いただく。すごく小規模な会議ですが、そこに核になる委員に入っ
ていただき、外部委員も招聘し、一緒に加わっていただき会議をより充
実させる、そのように進めていきたいと思っています。

松戸として、オリンピック・パラリンピックに向けた取組み、検討しな
ければいけないポイント、尾崎委員ご意見をお願いします。

○尾崎委員

委員の立場で、私は企業の者なので、少し相反するものが出てくるかもしれませんが、招致するということからしますと、ドミニカ共和国というのはバレーボールが非常に盛んなところで、我々もサプライヤーをしている国なので、そういうところでのお役に立てないかなと。あるいは今、シッティングバレー、パラリンピックの種目なんですけど、そこのオフィシャルサプライヤーを務めておりますので、そういうものの市民参画、経験していく場づくりや、日本の競技団体の方、あるいは海外との窓口などとして、お役に立てる部分があるかと思っています。

もう一つは、競技団体によって、もう既に何々の種目のキャンプ地に決まりましたと、そういうところがありますので、どのような財政予算を組んで迎え入れているのかという情報など、ある程度、ご提供できると思います。少しスポットな話ではあるんですけども、我々自身も勉強させてもらいながら、お役に立てるところをできるだけご提供していきたいなと思いました。

○長江会長

スポーツという点では、岡本委員、何かございましたら。

○岡本委員

特別に自分からこういうことをやって力になっていきたいというものは持ち合わせていないですが、現在、加盟団体の各種目で、東京大会でも活躍できる若い選手がいるという情報をもっています。その指導をしてくれる先生方に協会として、とにかく頑張ってもらいたいということなどです。

○長江会長

次世代を含めた形での選手育成の情報交換とサポート・支援ということですね。

観光のほうで杉浦委員、観光は文化ともつながっていきますが、どのように。

○杉浦委員

オリンピックは2020年7月の蒸し暑いときで、そういう気象条件のもとにどういうことが観光的にやることができるのかなというのは、なかなか想像つきにくいんですよ。だから、そのときの文化観光って、松戸市における催し物。この時期だと花火とか盆踊りとか、文化観光の部分で色々なもてなしはしていると思います。江戸川の水場のフェスティバル。風流な、そういうものもできるし。

○長江会長

灯籠流しなどが行われていて、献灯まつりの組織もありますし。

○杉浦委員

7月24日というと、隅田川の花火もこのころなんですね。

○長江会長

ずっと花火大会で、特に東京の近辺、川沿いは花火大会が多く行われます。

○杉浦委員

そうですね。松戸市の文化観光的な役割を、そういうプログラムでつくるんですね。

○長江会長

花火でいえば、対岸の葛飾区とか三郷市とか、いろんなところと連携しながら。

○杉浦委員

例えば花火大会の会場でも、外国人向けの何百人枠のスペースをつくるとか、それは事務局が設定しなくちゃなりませんから、そういう提案をするとか、そんなおもてなしができるかもしれません。

それに、できたら、西口デッキに聖火台のミニチュアの設置も。それは江戸川につくってもいいだろうし、早目に、話題性もあるし。あまりパフォーマンスしてもお金もかかるので、つくれば維持管理もしなくちゃなりません、記念写真を撮るぐらいのおもしろく、楽しい松戸市にしたいなと思います。

○岡本委員

ちょっと視点が違うかもしれませんが、先ほど尾崎さんが言われたように、選手自体は、自分の試合に出るときまでは、とてもじゃないが、日本の伝統文化に接するようなどころに行くことは全然できないですから、いかにモチベーションを高めて、試合に臨むかで精いっぱいですからね。

○尾崎委員

当然、合宿、キャンプになりますと、時期は1年前、合宿に来ていただいたり、あるいは直前合宿、キャンプ、と幾つかのケースが出てくる中で、取り組みは考えられるかと。一番たくさんの方が集まるのは直前であることは間違いないんですが、それ以外の関係者などが、かわるがわる来るとのことまで考えますと、取り組みは少し広がるのではないかと考えていますし、競技が終われば、あとは観光というのは一緒ですから、そのあたりはうまくスケジューリングさえ組めば、1カ月ぐらいにわたっていろんな取り組みがご紹介できる感じ。松戸は非常に便利なところですから。新潟でも近いというぐらいの海外の方々の意見のようです。新幹線で行って、乗り心地もいいと。そうすると、1時間半とか2時間というのは全然苦にならない。

○長江会長

薄葉委員、いかがでしょうか。商工会議所の側から。

○薄葉委員

人がふえて、これだけ売上になるという観点でいうと、まだイメージできないんです。ただテレビでオリンピックのニュースを聞いていると、千葉日報と

かいろんな新聞を見ながら、松戸市がやっていることを見たら、相当事務局はちゃんとやっているんだと思って、きょうは気持ちの中で敬意を表して参加しているんです。そういう意味でいうと、部会の説明されたときに、岡本委員はスポーツ関係部会だなという感じがあるんですが、商工会議所の立場からすると、事務局から案が出てくるかと思うので、その案に従って頑張ろうかなと思っています。

○長江会長

西機委員、いかがですか。

○西機委員

私としては、スポーツと大学関係ということで、部会にかかわらせていただけたらと思うんです。

またリオ大会についても、私は英語がしゃべれるので、理解できると思ったら、ブラジルはポルトガル語で、全く情報が手に入らないのです。正直、私もラグビー協会で、ワールドラグビーとかアジアのラグビーの人たちを招くのですが、日本人には大学のラグビーなどのニュースは、メディアに出ているので伝わるのですが、やっぱり言葉の壁があります。どう伝えるかということが準備されていないと、やっている人たちの楽しみも大事なのですが、人に来てもらうというのが目的となったとき、プロモーションというか、アピールしていくためのソーシャルメディアの活用、あるいはオリンピックのプロモーションとどう連携するかという方法、パブリックリレーションみたいなところを少し意図的にやらないといけない。せっかくそれぞれやっても、今回、オリンピックに出られた方の報告会についても、離れていると、情報が入らなくて、後で映像を見せてもらおうと、これだけのことをやっていると感じるのですが、オンタイム、ライブで人に伝えるための仕掛けみたいなものが、しかも松戸としてほかよりも飛び抜けて目立つようにするための仕掛けを考えないと、少しもつたない結果になると思います。そのあたり、部会にプラスアルファして、それぞれの部会に必ず横串でそういうことができるようにする必要があると、すごく思いました。

○長江会長

やはり情報の見える化を何とかしてもらいたいと思います。予算をかけずにできること、松戸市のホームページに必ず入れていただく、それから、テレビニュースなどでの報道、そしてSNSとかは余り強くないですが、スマホとかにすぐ情報が上がってくる様な情報の出し方とか、若い世代も、ある程度の年代の人たちも、スマホで検索しますから、そこから情報がとれたりすること、広報戦略をどうするかということもすごく大切なことだと思います。

太下委員はいかがでしょう。

○太下委員

私の場合、やはり文化関係部会ということになると思いますけども、松戸市の場合には文化振興財団が今までいろんな活動をされているという蓄積もありますし、あと、民間では、「PARADISE AIR」というような、おもしろいアーティスト・イン・レジデンスの取り組みも駅前であります。あとは、今、市でクリエイティブ産業の振興なんかも非常に力を入れていると伺っていますので、そういったこともうまく活用しながら、巻き込んでいながら、大きなうねりになるようなことを検討できればと思っております。

○長江会長

西機委員からスポーツと大学関係とありました。それに薄葉委員の商工会議所はどのように関係していただくか。

商業活性化というか、地域創造というか、文化だけじゃなくて、地域が活性化するというネーミングをどこかに入れていただいて、例えば松戸文化関係、地域創造みたいな形でやったほうが、商工会議所が参画しやすいとか、そういうことはあると思います。具体の名称に関しても、まだ案なので、広報関係の戦略を文化のほうの関係で入れていただくとか、あるいは西機委員が言われたように、横串を全部、それぞれどのように広報して、市民の人も、それから全国的にも、全世界的にもアピールできるような方向性をしっかりやっていく、見える化しないと、やっていたけれど知らない、みたいな形では困るということだと思います。

○岡本委員

外国語を話せる市民の方をボランティアとしてどのぐらい募集されるか、大会のときの需要がどのぐらいあるかわかりませんが、外国語を何でも話せる人もいらっしゃるでしょうし、私のように「good afternoon」とかそういう簡単な英語しか話せない人もいます。それでも興味があって、参加したいという人もいるかもしれません。そういう人を松戸市として教育していく。何回か受けてもらったら、その人にはボランティアとして参加できる資格を与えるとか、そういう感じのことができたらいいと思います。

○長江会長

すごく大切なポイントで、市民参画関連の部会の中で、単に外国語が話せるというだけでなく、一緒に学びながらオリンピックを迎え、ボランティアでお役に立てる様な、そういうストーリーを部会で考えていただけたらと思います。

そのほかに、サインが重要ですね。松戸市内に外国人の方がいらして、戸定邸にどういう順路で行ったら良いのか、サインに外国語の表示をいろんな形で充実しておかないと、英語だけでもだめです。今、都内に行くと、大体英語と中国語とか韓国語とか、ちょっと広がりがあるような、アジアにも配慮する

ような表示がなされています。

それから、松戸は観光案内所が駅の中にないので、観光案内所に語学ができる方にボランティア参加いただいて、こんなところがあるから、ここは30分コース、ここは1時間コース、というような広報とか、マップの英語版があるとか、いろんなことを考えていかななくてはいけない。それを1からつくるのではなく、手持ちの版に英語を入れていくとか、例えば観光協会がつくっているマップ、それを生かして変更すれば出来る様な形にしていかないと、最初からだコストがかかり過ぎて、非常に難しい問題が出てくる。そういうことが、いろいろと部会で検討されて、薄葉委員のご意見も、大会はすごく先だと思ったが、あつという間に来てしまうので、3年前、2年前、直前の様に、時系列でやるべきことを決めていかないと、全部絵に描いた餅になる、というご指摘がありました。そのとおりだと思うので、ぜひ皆様方に協力をお願いしたいと思います。

○西機委員

今のサインのことで、ピクトグラム、絵記号の役割がありますよね。あれは東京オリンピックから日本で始まったと言われていますが、松戸市の「やさシティおもてなシティ」に対するブランディングというのは、あくまでもオリンピック・パラリンピックを活用して「やさシティおもてなシティ」を目指そうということですよ。

そのとき、今後3年ぐらいかけて案内や表示などをわかりやすくする作業を進めるとなったとき、ピクトグラムに「やさシティおもてなシティ」みたいなもののロゴなりイメージを刷り込むというか、まち全体をそういうふうに変えていく。どうせサインを出すのであれば、ただ見やすくするだけでなく、松戸のブランドとかイメージみたいなものを刷り込んでいって、徐々にオリンピックに向けて、その先も、それをイメージ化していく様なことが、可能であるなら今から変えていける、イメージをつくっていける作業としてあると、すごく思いました。

○長江会長

「やさシティ」というのは、松戸市市制の70周年事業のときにつくったロゴですよ。

でも、一般的にはあまり知られていないのではないのでしょうか。

○西機委員

この「やさシティ」の松のサインは、市民の方ならば完全に入ってくるものなんですか。私は市外なので、今、これがブランドのイメージなんだと初めて知りました。松になっているんですね。

○岡本委員

地元の人でもあまり知らないと思います。

○長江会長

こうやって見ると、子育てにやさしいまちというのが中に入り込んでいるでしょう。

○西機委員

そういうメッセージが、さっきおっしゃいましたように、ストーリーをサインや記号で徐々に伝えていくことが必要かと思います。チーバ君は大分千葉のイメージになっているような気はしますが。

○長江会長

ゆるキャラとして、この間、私の大学の学園祭にもチーバ君が来てくれて、学生と一緒に写真を撮っていました。そういう部分で広がらないと、せっかくいいことをやっても、広がりが難しいんじゃないかなという、そのとおりだと思うんです。

大体、ご意見で出ていると思うんですが、尾崎委員はスポーツ関係部会と、他にご希望とかございますか。

○尾崎委員

会長の意向に従い、部会に参加します。

○長江会長

杉浦委員は、松戸文化関係部会で。

○杉浦委員

そうですね。それにかかわり合いを持っていきたいと思うんですが、松戸の文化の充実、発信について、先ほど岡本委員もおっしゃったように、言葉ですよ。英語だけじゃなくて、ロシア語だ、フランス語だ、スペイン語だ、ポルトガル語だ、中国語だの、言葉を使える人をどういうふうに松戸市の財産にするか。情報を発信したくても、言葉が通じないことには何も伝わりません。

○長江会長

そうですね。ただ、ありがたいことに、潜在的能力を持っている方が市民としていらっしゃいます。例えば、ビジネスとか様々な分野で海外駐在経験をされている方は、かなりいらっしゃると思います。

○杉浦委員

だから、老若男女かかわらず、早く名簿づくりを。事務局として、そういう方に協力してもらえば、いろいろとやり方があり、それでプログラムをつくれると思うのです。

○長江会長

市民参画関係部会は、国際化とかグローバル化の部分を入れていただき、そちらには飯沼委員が国際交流協会の会長として、潜在的にどのぐらいのボラン

ティア、どのぐらいの国の言葉が松戸市として対応可能であるか、よくご存知です。長く活躍され、ベースがありますから、飯沼委員がご参加いただくと一番いいかなと思います。

太下委員には、松戸文化関係部会、それから、市民参画関係部会とかそういう形で、どのように情報を共有したらいいかということも含め、ご了解いただければありがたいです。

岡本委員はスポーツ関係部会ですね。リオ大会に出場した選手たちもそうですが、その予備軍、これから3年半で大会に出場できそうだという方も含め、2020 東京大会、その次の大会まで頑張れるという子どもたちを育成するところ、あるいは大会をサポートするスポーツ関連のさまざまなボランティアの方々もそろっており、松戸市は強いと思うので、ぜひご助言いただけたらと思います。

それでは、部会については、委員の皆さんのご意向に沿いながら進めていくということとし、きょうの議題につきましては閉じさせていただきます。本日、委員の皆様さまにさまざまご提案いただきましたことを含め、次回会議に備えたいと思います。

以上をもちまして、第5回推進会議を閉会させていただきます。